NEWS

The Kyushu University Museum

九州大学総合研究博物館ニュース

No. 42

October, 2024

あらたに3件が国の登録有形文化財に指定

令和6年4月に九州大学総合研究博物館長に就任しました堀 賀貴（ほり よしき）です。建築の歴史を専門にしています。博物館が拠点としている旧工学部本館に加えて、本部事務室棟（旧第一庁舎）、本部建築課棟（旧第三庁舎）、旧工学部正門及び塀も国の登録有形文化財に指定されました。博物館の展示物だけでなく、こうした歴史的建造物も是非ご鑑賞いただければと思います。

総合研究博物館第10代館長　堀 賀貴

ISSN 1346-6801

着任のご挨拶と研究紹介

博物館長挨拶

堀 賀貴　総合研究博物館第10代館長

2024年4月より九州大学総合研究博物館長を拝命しました。私の専門は古代ローマの建築ですが、本稿では九州大学総合研究博物館が活動の拠点とする旧工学部本館と向かい側の本部事務室棟(旧第一庁舎)、本部建築課棟(旧第三庁舎)、また旧工学部正門及び塀(いずれも国の登録有形文化財に指定されました)について紹介したいと思います。

これらの建物を設計した倉田謙は東京本郷元町生まれで、明治39(1906)年東京帝国大学工科大学建築学科を卒業、明治41(1911)年に九州帝国大学技師として着任し、昭和4(1929)年5月15日に発覚した建築課汚職事件の責任をとって12月に建築課長を辞職するまで、旧工学部本館まを含め箱崎キャンパスの整備を主導しました(なお、倉田家は元町に300坪を超える土地を所有する資産家ですので、彼が汚職に関わったとは考えられません)。旧帝国大学とよばれれる大学には文化財として登録されている建物が多く残りますが、九州大学のように一人の建築家(担当者)が最初から最後まで一貫して設計した建物群は他にありません。倉田謙の東京帝国大学建築学科の同期には、「様式建築の名手」とうたわれ大阪の中之島公会堂(実施設計は辰野金吾)や東京の初代旧歌舞伎座で知られ、後に東京美術学校(現東京芸術大学)の教授となる岡田信一郎(首席)、関西モダニズムの先駆者といわれ、後に京都高等工芸学校(現京都工芸繊維大学)の教授となる本野精吾(次席)がいます。東京帝大建築学科の歴史のなかでも屈指の人材を輩出した年において倉田は、3年次、卒業年次を通じて三席でした。岡田、本野はどちらかといえば意匠畑の人材でしたが、倉田は実用的な建築を目指していたようです。耐火性、耐震性に優れた建築を目指した倉田の意図は旧工学部本館にも反映されています。今考えてみると、当時の九州帝国大学にとって倉田の辞職は大変な人的損失だったかもしれません。倉田は、大正14(1924)年東京帝国大学工科大学建築学科を卒業し、昭和元(1925)年から九州帝国大学技師として勤務した小原節三を後継者として考えていたようです。おそらく、旧工学部本館の玄関および車寄せに取り付けられた鳥形持送りやステンドグラスは彼のデザインと思われます。しかし倉田のあと、旧工学部本館の工事を最後まで見届けたあと辞職し、昭和11(1936)年に東京で竹蔭草舎創作事務所を設立し小卓子や書架を製作しました。また、歌人としても活躍しましたが、建築家としての再起を志すものの昭和28(1953)年胃ガンにより惜しまれつつその生涯を閉じています。

これら文化財の建設に関わった建築家たち、ある意味で歴史に翻弄された才能ある建築家たちの思いを建物を通じて感じていただければ幸甚です。

❶ 筆者近影／❷ 倉田 謙(左端)と小原 節三(右から2番目)

COLUMN❶

フジイギャラリー展示開催予告
「弥生時代の人々 ―九州大学の自然人類学研究―」

米元 史織　分析研究部門・准教授

10月3日から1月10日まで、フジイギャラリーでは「弥生時代の人々―九州大学の自然人類学研究―」展を開催します。総合研究博物館は約3000体の遺跡出土古人骨を所蔵しています。その中心は北部九州・山口地域の弥生時代人骨です。九州大学を中心に国内外の自然人類学者たちが北部九州・山口地域の弥生時代の人骨を研究したことで、弥生時代の人々は縄文時代とは顔かたちが大きく異なることが明らかになりました。現在もこれらの資料を用いた様々な研究が行われ新しいことが明らかになっています。本展示では、膨大な資料を核として進められてきた人類学的研究を紹介します。

受賞報告

動物学教育賞を受賞して

～これまでの展示を振り返って～

丸山 宗利　分析研究部門・准教授

このたび、日本動物学会の動物学教育賞を受賞することとなりました。受賞内容は「出版・展示等を通じた昆虫の多様性に関する普及啓発」というもので、私が尊敬する畑正憲氏（作家・「むつごろうさん」）や矢島稔さん（上野動物水族館や多摩動物公園の園長を歴任）がこれまでに受賞されたことをふくめ、これまでの活動が評価されたことを大変うれしく思います。出版に関しては、『昆虫はすごい』（光文社）や『角川の集める図鑑 GET!昆虫』（KADOKAWA）、『学研の図鑑 LIVE 新版 昆虫』（Gakken）がとくに評価を受けたものと思いますが、ここでは当館や学外で行ってきた展示を少し振り返りたいと思います。

最初に担当した展示は、当館に着任した翌年の2009年、当時赤坂にあった少年科学文化会館で行った「昆虫のヒミツ」で、九州大学にある昆虫の研究室の研究内容を紹介する展示でした。多数の原稿をとりまとめ、展示物の選定や展示方法を一から考えていく仕事となり、今思えば最初の展示としてはかなり荷の重い仕事だったと思います。

ただ、それから展示というものが面白くなり、毎年、小規模な展示を手作りで行うことになりました。2010年には「ツノゼミの世界」、2012年には「アリの巣のいきもの」、2013年には「ゾウムシの世界 美と多様性」、2015年には「きらめく甲虫」など、自分の専門性（とくに甲虫類やアリと共生する昆虫）や撮影技術も生かし、当館の持つ標本の可能性を示しながら、他館では開催されたことのないであろう独自の内容を目指しました。2018年には天神地下街で大規模な昆虫展「新種発見！昆虫冒険旅行」を行い、2週間で4万人の来場者を記録しました。これらの人気も関連し、2018年には天神にあったアルティアムというギャラリーで「密やかな部屋 きらめく昆虫標本」を担当することになり、これが最初の学外協力展示となりました。同年、国立科学博物館の「特別展 昆虫」の監修も担当することになり、思いがけず当館の標本をますます多くの人に見ていただく機会ともなりました。まだ記憶に新しい、2023年にTNC放送会館で行った「ふくおか大昆虫展 inももち」も規模が大きく、2009年の内容を更新するような展示となりました。

学外展示の監修をふくめ、これまでに行ってきた展示は30回を超えます。今後の当館の活動でも、これまでの展示や出版の経験を活かし、より多くの方に昆虫のすばらしさや資料の大切さを伝えられるよう努力したいと思います。これまでの活動を支えてくださった多くの皆様にお礼申し上げます。

❶ アートギャラリー アルティアム（天神）での展示の様子（2018年）
❷ 少年科学文化会館での展示の様子（2009年）

新聞連載のお知らせ

西日本新聞の文化面に9月17日より「虫の居どころ」というエッセイを連載します。昭和26年から続く歴史あるコーナーだそうです。福岡の昆虫についても取り上げますので、ぜひご覧ください。

丸山 宗利

開催報告

令和５年度公開講演会

フィールドの学 ―古生物学と考古学―

福永 将大　開示研究部門・助教

2024年２月17日（土）に、九州大学伊都キャンパスのイーストゾーン大講義室Ⅱで、令和５年度九州大学総合研究博物館公開講演会「フィールドの学 ―古生物学と考古学―」を開催しました。

当館の宮本一夫館長と前田晴良副館長が、令和５年度をもってご退職されるということで、両先生のご退職を記念した講演会を企画。両先生のご専門である考古学と古生物学に共通する「フィールド」に焦点をあて、これまでの調査研究のご成果はもちろん、考古学・古生物学の未来についてご講演いただきました。

宮本館長は「モンゴルの草原を掘る ―牧畜社会の始まりを求めて―」、前田副館長は「白亜紀の黄昏を探る ―サハリン調査―」と題してそれぞれご講演いただき、フィールド調査の過酷さ、大変さ、そして何よりもその楽しさを、ご自身の調査研究実践にもとづいて語っていただきました。考古学・古生物という学問分野の土台は、まさに「フィールド」にあるということを、改めて感じさせられた次第です。まるで少年のように目を輝かせながらお話される宮本館長と前田副館長のお姿も、とても印象的でした。

交通アクセスが必ずしも良くない会場での講演会でしたが、当日は85名を超える多くの方々にご参加いただきました。ご来場いただきました皆様には、改めて御礼申し上げます。

また、同日に、伊都キャンパスに新しくできた「伊都標本資料研究・教育ブランチ」の見学ツアーを開催しました。伊都標本資料研究・教育ブランチは、2023年４月に竣工した施設です。学内の教職員・学生が研究・教育のために収蔵資料を利活用する場としてだけではなく、その収蔵資料を活かした展示エリアを整備することで、一般の方にも足を運んでいただけるような施設を目指しています。今回は特別に施設内を公開しましたが、まだ整備を進めている段階で、皆様にご覧いただけるようになるまで、いましばらく時間を要します。また今回のような公開イベントを開催する際には、当館のHPなどでお知らせいたしますので、ご期待くださいませ！

❶伊都標本資料研究・教育ブランチ見学ツアー／❷講演する宮本先生／❸講演する前田先生

COLUMN❷

開催予告

弥生人骨 ―「日本人の起源」探求のミッシングリンク 中橋孝博先生記念講演会

米元 史織　分析研究部門・准教授

10月26日午後13時30分～15時（受付開始は13時）まで伊都キャンパスイーストゾーンの日本ジョナサン・KS・チョイ文化館にて九州大学名誉教授中橋孝博先生の記念講演会を開催します。中橋先生は弥生時代人骨研究の第一人者であり、弥生時代の人々の起源をたどって中国・韓国・台湾・モンゴル等様々な国へ調査に赴き数多くの古人骨の研究を行ってきました。資料に根差した重厚な研究の成果と今後の学界の行く末について、ご講演いただきます。是非、ご参加ください。

博物館特別公開

福岡ミュージアムウィーク 2024

伊藤 泰弘　開示研究部門・教授

福岡ミュージアムウィーク2024（5月18日～26日）に参加しました。期間中は土日限定で、ふだんはお見せしていない壁画のある4階会議室、旧工学部列品室、動物骨格標本開示室、高壮吉鉱物標本開示室をはじめ、植物・昆虫・人骨・化石・工学系すべての開示室を公開しました。また、これに合わせ、令和６年度公開講演会「まちとミュージアム ―共創協学の場の創出にむけて―」を1階大講義室で開催しました。博物館のイベントとしては、毎年好評の前田晴良名誉教授による「名誉プロフェッサー前田の化石講座」を開講、また久しぶりに「鉱物標本作成ワークショップ」を行い、大変多くの参加者で賑わいました。さらに、「まちの学芸員さん」企画のクイズラリー「ハカセからの挑戦状」や、統合新領域学府の大学院演習としてワークショップ「ヒマラヤスギの妖精さんをつくろう」などもコラボして来館者を楽しませてくれました。それぞれの開示室では、共創、文、法、医、農、理、統合新領域、生物資源、地球社会と様々な学部・学府の学生・院生や、鉱物ボランティアの皆さんが、来館者の方々に積極的に話しかけて解説するなど盛り上げてくれました。今年は箱崎サテライトの外構整備工事が完了したこともあり、昨年よりも多くの来館者の方々で賑わい、博物館の魅力を再認識する機会となりました。

開催報告

令和６年度公開講演会
まちとミュージアム―共創協学の場の創出にむけて―

三島 美佐子　分析研究部門・教授

今年度の公開講演会は、上記「福岡ミュージアムウィーク」開催初日の2024年5月18日(土)午後に開催されました。2019年度以来久々に、学外ゲストを招いての公開講演会となりました。テーマは「まちとミューアム」。当館では、箱崎キャンパス移転の完了やその跡地開発に伴い大きく変容しつつある近隣の「まち」と、そこに隣接し活動を継続していくことになる当館との、あり方や関係づくりに注目した活動に取り組んできています。令和３年度から文化庁による博物館支援事業の採択を受けており、今年度（令和６年度）もモデル事業としての実践をすすめているところです。今年度の公開講演会では、昨年度の採択事業で「共創協学」の新たな試みとして取り組んだ「まちの学芸員」を紹介してもらったり、デジタルやバーチャルというものが今後の活動や博物館にどのような可能性をもっているかを示す講演をいただきました。前者については、令和５年度から採択事業のコーディネーターを担っている二宮聡氏（CLC works 代表）、また後者については、昨年度の事業で樹木の3D化に関する指導・助言をいただいた株式会社ホロラボCEOの中村薫氏に、それぞれ「「まちの学芸員」～まちとミュージアムをつなげる新たな取り組み」、「テクノロジーがつなげる人とまちとミュージアムのあり方改革」として、ご講演いただきました。特に中村さんのご講演では、国外で発売直後にハワイまで行って購入したというApple社製ゴーグル型デバイスのデモンストレーションをしていただきました。会場ではゴーグルを通して見えている風景をスクリーンで共有し、そのリアルさにどよめきが起きていました。

当館でも学術資料の3Dデジタル化に取り組み、教員の一部はそのデータを用いた分析研究に取り組んでいます。そのようなデータを今後、専門的な研究のみならず広く人々の学びや社会に役立てていくことを考える上で、データの生成に加え、それらを活かせる「場」と、それらを活かすリテラシーを涵養する機会の存在が重要であるということを、改めて今回の講演会で認識することができました。

❶左は二宮さん、右はゴーグルを装着した中村さん

開催報告

令和6年度公開展示

九大1万年史—発掘された九州大学筑紫キャンパス内の遺跡—

福永 将大　開示研究部門・助教

2024年4月27日～6月16日に、大野城心のふるさと館にて九州大学総合研究博物館2024年度公開展示「九大1万年史—発掘された九州大学筑紫キャンパス内の遺跡—」を開催しました。

九州大学には、主に伊都・病院・筑紫・大橋の4つのキャンパスがあります。また、箱崎キャンパス移転後に、九州大学が保全していくことになったエリアは、箱崎サテライトと呼称され、現在、九州大学総合研究博物館を含むいくつかの部局が活動しています。

これまで、各キャンパスにおいて埋蔵文化財発掘調査が行われてきており、約9,500年前の縄文時代から近現代にいたるまでの、各時代の考古資料が見つかっています。これらの資料を調査研究することによって、過去1万年におよぶ歴史を紐解くことができるのです。本展示のタイトルを「九大1万年史」とした理由はそこにあります。

本展示では、主に筑紫キャンパスから出土した考古資料に焦点を当てつつ、伊都・病院・大橋の3つのキャンパスに加え、箱崎キャンパス跡地での発掘調査成果について紹介しました。各キャンパスで出土した考古資料の最先端の調査研究成果は、まさに九州大学における考古学研究の最前線を体現しています。本展示では、出土した考古資料を陳列するだけでなく、こうした最先端の調査研究成果についても紹介することで、「大学博物館」ならではの展示を意図して企画しました。

また、合わせて「えりぬき九大博 ～教員イチ押しの収蔵品～」と題したミニ企画展示コーナーも設けて、古生物・貝類・鉱物・植物・昆虫・古人骨の各分野の九大博教員が選ぶ、イチ押しの収蔵品を紹介・展示しました。古生物学の前田晴良先生と昆虫学・丸山宗利先生には、展示期間中に、それぞれワークショップも開催いただきました。

最後になりますが、本展示の開催にあたってご尽力・ご協力いただきました、大野城心のふるさと館の皆様、そして何よりも本展示にご来場いただきました多くの方々に厚く御礼申し上げます。

❶開会式／❷❸❹展示風景／❺前田先生ワークショップ

COLUMN❸

フジイギャラリー展示開催報告

九州大学「第九」日本人初演100周年記念事業 九大フィル史料展示

藤本 望　工学研究院・教授、九大フィル顧問／期間●2024年6月10日(月)～8月4日(日)

九大が所有する歴史ある楽器や史料、九大フィルの歴史について展示しました。加えてトークセッションや九大フィルのミニコンサートと盛りだくさんの内容でした。特に100年前に実際に使用された楽譜は手書きで丁寧に書かれており、当時の方々の思い入れを感じさせられました。当時、恐らく楽器に触れたばかりの学生たちがまだ誰も聞いたことのない西洋の曲を演奏するという、想像するだけでも大変なことに取り組んだことに感慨もひとしおです。現在の学生の演奏は、たぶん当時の演奏より技術的には優れているでしょう。しかし、音楽に取り組む姿勢や音楽に対する思いは、果たしてどちらが優れていたのだろうかと考えさせられます。九大フィルのメンバーにとっても、考えさせられる内容だったのではないでしょうか。

❶展示の目玉の大正13年(1924)購入のコントラファゴット

開催報告

附属図書館貴重文物展示
「続・雅俗繚乱 ―江戸の秘本・珍本・自筆本―」

兵藤 健志　附属図書館利用者サービス課専門員

日時●2024年5月10日(金)～6月29日(土)／会場●九州大学伊都キャンパス フジイギャラリー／主催●九州大学附属図書館／共催●九州大学総合研究博物館

江戸期和装本を中心とする貴重書コレクション・雅俗文庫の展示会を開催しました。

雅俗文庫は故・中野三敏名誉教授の手により蒐集された資料群です。平成21年から附属図書館で受け入れを進め、貴重書コレクションの中でも随一の規模を誇ります。

展示会は本学人文科学研究院の川平敏文教授にご監修いただきました。川平教授は、長年、雅俗文庫の目録作成の調査に携わられました。その調査完了の記念として開催したのが今回の展示会です。

展示内容は、様々な学部の学生や、広く一般市民の方々にも興味を持っていただけるよう、多くの工夫を凝らしました。例えば、彩り鮮やかな多色刷や、江戸期のハウツー本など、専門知識を問わず楽しく鑑賞できるコーナーを含む形で展示を構成しました。また、注目点を端的に表すため、展示品ごとに添えた短いフレーズ(「下唇に注目」「盛れるメイク講座」など)も工夫の一つです。加えて、雅俗文庫の特色をなす一風変わった春本のコーナーを設けたことは果敢な試みでした。これにより雅俗文庫の魅力を余すことなくお伝えできたと自負しています。

会期中は、たくさんの方々にご来場いただき、好評を博しました。会期後は、同内容を電子展示として再構成し、インターネット公開しています。雅と俗が乱れ舞う、江戸の秘本・珍本・自筆本を電子展示で再びご鑑賞いただければ幸いです。

▼電子展示 URL
https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/exhibition/gazoku2024

❶展示資料『青楼美人合姿鏡』／❷ギャラリートークの様子

開催報告

史料保存運動の軌跡が紡ぐもの
―九州文化史 90 周年記念展―

梶嶋 政司　附属図書館付設記録資料館 九州文化史資料部門・助教

日時●2024年7月10日(水)～9月10日(火)／会場●九州大学伊都キャンパス フジイギャラリー／主催●九州大学附属図書館付設記録資料館　九州文化史資料部門
共催●九州大学総合研究博物館

本展覧会は、九州大学がこれまで行なってきた九州地域の史料保存運動に焦点をあて、その歴史を振り返ったものです。現在の我々はなぜ過去の歴史の記録を未来に継承する必要があるのかという問題を、改めて提起しています。

九州文化史研究所(現在の記録資料館九州文化史資料部門)は、1934(昭和9)年に当時の法文学部内に設置されてから今年で創設90周年をむかえました。ここを拠点として収集してきた膨大な歴史資料を紹介するにあたっては、展示コンセプトを考え、キャプションを作成し、展示ケースへ資料を並べるといった作業が不可欠となりますが、こうした一連の作業を行なったのは、文学部・人文科学府に所属する学生や大学院生の皆さんです。

毎週水曜2限目の日本史学実習(担当教員:木土博成比較社会文化研究院准教授。協力:福田千鶴基幹教育院教授・伊藤幸司比較社会文化研究院教授・顧明源人文科学研究院助教・梶嶋政司記録資料館九州文化史資料部門助教)に集まった若き「学芸員」たちは、たくさんの資料から何を選び、どのような言葉で説明すれば思いが伝わるのか、見せ方にも工夫が必要だ、などと試行錯誤をくりかえしながら、7章構成で合計40点の精選した資料に基づき、7月10日の展示会の開催に漕ぎ着けました。会期中の8月4日には、オープンキャンパスにあわせたギャラリートークも開催することも出来、当日は多くの来館者が熱心に聞き入っていました。先輩大学院生から展示資料の説明を聞いた高校生たちにとっても、九州大学を知り歴史を考える貴重な機会になったにちがいありません。

No. 42 September, 2024
NEWS
The Kyushu University Museum
九州大学総合研究博物館ニュース

博物館の活動記録
Activities of Exhibitions & Conferences

特別展示

●「総合知とデザインと未来」
期間○令和6年4月1日(月)～5月1日(水)
場所○フジイギャラリー
主催○九州大学芸術工学部 未来構想デザインコース プロダクトデザイン研究室、九州大学ネガティブエミッションテクノロジー研究センター未来システムデザイン研究部門
共催○九州大学総合研究博物館、九州大学未来社会デザイン統括本部 シンクタンクユニット
協力○九州大学 大学院工学研究院 / 工学府 君塚研究室、九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 藤川研究室

●令和5年度文化庁 Innovate MUSEUM 成果展示
「まちとつながる地域共創協学ミュージアム 2023」
期間○令和6年4月8日(月)～7月10日(水)
場所○九州大学箱崎サテライト総合研究博物館常設展示室
主催○九州大学総合研究博物館

●科研成果書籍出版記念展示
「帝国日本と森林―近代東アジアにおける環境保護と資源開発」
第五期　金沢大学資料館会場
期間○令和6年5月7日(火)～7月5日(金)
場所○金沢大学資料館展示室
主催○金沢大学資料館、九州大学総合研究博物館、「帝国日本と森林」巡回展実行委員会
協力○金沢大学図書館・科学研究費補助金基盤研究(B)「20世紀東アジアの帝国林業と環境思想 ―近代日本の科学的林業とその「遺産」―」

●「続・雅俗繚乱 ―江戸の秘本・珍本・自筆本―」
期間○令和6年5月10日(金)～6月29日(土)
場所○フジイギャラリー
主催○九州大学附属図書館
共催○九州大学総合研究博物館

●史料保存運動の軌跡が紡ぐもの ―九州文化史90周年記念展―
期間○令和6年7月10日(水)～9月10日(火)
場所○フジイギャラリー
主催○九州大学附属図書館付設記録資料館 九州文化史資料部門
共催○九州大学総合研究博物館

●「甲虫の多様性」
期間○令和6年7月22日(月)～9月13日(金)
場所○九州大学箱崎サテライト総合研究博物館常設展示室
主催○九州大学総合研究博物館
共催○昆虫科学・新産業創生研究センター、農学部昆虫学教室

公開展示

●「九大1万年史 ―発掘された九州大学筑紫キャンパス内の遺跡―」
期間○令和6年4月27日(土)～6月16日(日)
場所○大野城心のふるさと館
主催○大野城心のふるさと館、九州大学総合研究博物館、大野城市
共催○九州大学キャンパス計画室、九州大学大学院総合理工学府、九州大学埋蔵文化財調査室

講演会等

●「まちとミュージアム ―共創協学の場の創出にむけて―」
日時○令和6年5月18日(土) 13時30分～16時30分
場所○九州大学箱崎サテライト旧工学部本館1階大講義室
主催○九州大学総合研究博物館

サテライト展示

●福岡県のクワガタ
期間○令和4年2月24日～
場所○糸島市立糸島市図書館二丈館
●福岡県のクワガタ
期間○令和4年2月24日～
場所○糸島市立伊都文化会館
●福岡県の蝶
期間○令和4年2月24日～
場所○糸島市立志摩歴史資料館

学外連携事業

●「福岡ミュージアムウィーク 2023」
期間○令和6年5月18日(土)～5月26日(日)
場所○参加各施設
主催○福岡ミュージアム連絡会議(福岡市博物館、福岡市美術館、福岡アジア美術館、福岡県立美術館、「博多町家」ふるさと館、はかた伝統工芸館、王貞治ベースボールミュージアム Supported by DREAM ORDER、九州大学総合研究博物館、九州産業大学美術館、西南学院大学博物館、能古博物館、福岡市動植物園、福岡市文学館、博多の食と文化の博物館ハクハク、高取焼本家味楽窯美術館、福岡女子大学美術館、福岡市科学館、チームラボフォレスト福岡―SBI 証券)
協力○(株)博多座、(公財)福岡市文化芸術振興財団、よかたい図書館共同事業体(福岡市総合図書館指定管理者)

協力

●九州大学「第九」日本人初演100周年記念事業 九大フィル史料展示
期間○令和6年6月10日(月)～8月4日(日)
場所○フジイギャラリー
主催○九州大学
共催○九州大学大学文書館
協力○九州大学総合研究博物館、九州大学附属図書館

●「大昆虫展 in 東京スカイツリータウン ようこそ昆虫の惑星へ」
期間○令和6年7月13日(土)～8月26日(月)
場所○東京スカイツリータウン・ソラマチ5階「スペース 634」
主催○大昆虫展実行委員会(スポーツニッポン新聞社、共同通信社、TBSラジオ、BSテレビ東京、びあ、テレビ東京メディアネット)
後援○環境省／墨田区／墨田区教育委員会／墨田区観光協会／上月財団
監修○五箇 公一(国立環境研究所 生態リスク評価・対策研究室長)
丸山 宗利(九州大学総合研究博物館准教授)
特別協力○東武鉄道、東京スカイツリータウン、九州大学総合研究博物館
協力○足立区生物園、NPO 法人昆虫食普及ネットワーク、KADOKAWA、TCA 東京ECO 動物海洋専門学校、帝京科学大学、テクプラパーク powered by ビービーメディア、日本大学芸術学部、北杜市オオムラサキセンター、斉藤 一哉(九州大学芸術工学研究院准教授)、島田 拓(Ant Room 代表)、じゅえき太郎(イラストレーター)、法師人響(昆虫写真家)、政所 名積(展翅屋工房)、矢後 勝也(東京大学総合研究博物館講師)

●きゅーはくサマーツアー「博物館で昆虫採集」
期間○令和6年7月30日(火)～9月1日(日)
場所○九州国立博物館4階 文化交流展示室 第11室ほか
主催○九州国立博物館
協力○九州大学総合研究博物館 丸山宗利

講座・ワークショップ他

●地質の日記念イベント「名誉プロフェッサー前田の化石講座」
日程○令和6年5月19日(日)、25日(土)、26日(日)
場所○旧工学部本館2、3階 化石閲覧開示室ほか
主催○九州大学総合研究博物館

●鉱物標本作成ワークショップ
日程○令和6年5月18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日)
場所○旧工学部本館2階

●クイズラリー「ハカセからの挑戦状」
日程○令和6年5月18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日)
場所○旧工学部本館

●創作ワークショップ「ヒマラヤスギの妖精さんをつくろう」
日程○令和6年5月25日(土)
場所○旧工学部本館3階 第1会議室

●九大フィル史料展示関連イベント フライデーランチコンサート
日程○令和6年7月12日(金)、19日(金)、26日(金)
場所○フジイギャラリー
主催○九州大学
共催○九州大学大学文書館
協力○九州大学総合研究博物館、九州大学附属図書館

●九大フィル史料展示関連イベント オープンキャンパスコンサート
日程○令和6年8月3日(土)
場所○フジイギャラリー
主催○「第九」日本人初演100周年記念事業実行委員会

その他の活動状況
Others

運営委員会

令和6年2月28日(書面)
令和6年3月18日(書面)
令和6年6月13日(WEB)

人事往来

●令和6年4月1日付けで、堀 賀貴が館長に就任しました。
●令和6年4月1日付けで、三島 美佐子が副館長に就任しました。
●令和6年4月1日付けで、伊藤 泰弘准教授が教授に昇任しました。
●令和6年4月1日付けで、森田 裕子が専門員として着任しました。
●令和6年3月31日付けで、前田 晴良教授が退職しました。
●令和6年3月31日付けで、一般職員の盆子原 勇が退職しました。
●令和6年6月10日付けで、米元 史織助教が准教授に昇任しました。

総合研究博物館では2022年、新たに使途特定寄附金を設置しました。皆様からの以下2つのご寄付を受け付けています。

『博物館活動充実基金』

◎当館は、本学の教育・研究・医療の歴史の中で収集された約155万点にのぼる貴重な標本・資料を管理し、新たな教育・研究へ活用するために尽力しています。皆様からのご寄付は、博物館活動をさらに充実させるとともに、今後の博物館の整備等に必要な諸事業に活用いたします。

▼詳しくは総合研究博物館 HP をご参照下さい
【九州大学総合博物館：博物館活動充実基金(kyushu-u.ac.jp)】
http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/information/museumfund.html

使途特定寄附金
『総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業』

◎当館は、九大百年の歴史的エリアである箱崎サテライトにおいて令和10年にリニューアルオープンします。また伊都キャンパスに伊都標本資料研究・教育ブランチを令和5年に設置しました。リニューアルに際し、箱崎と伊都をつなぐ、大規模な展示施設の整備を企画しています。皆様からのご寄付は、展示・開示活動を核とした情報発信、地域連携、社会教育などの諸活動のさらなる拡充と機能強化に活用いたします。

▼詳しくは九州大学基金の HP をご参照下さい
【九州大学総務部同窓生・基金課基金係：総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業】
https://kikin.kyushu-u.ac.jp/news/view.php?cld=1558&r_search=&mode=1&page=1

編集○福永 将大　デザイン○UNIZON　発行○九州大学総合研究博物館　〒812-8581　福岡市東区箱崎 6-10-1　TEL 092-642-4252　website○http://www.museum.kyushu-u.ac.jp
印刷○城島印刷株式会社　〒810-0012　福岡市中央区白金 2-9-6　TEL 092-531-7102　FAX 092-524-4411　発行日○令和6年10月8日
©2024 The Kyushu University Museum